

エエカマ

「アルミ缶の詩」につづく

第2号

二〇一一年一月十日

編 集：上田假奈代（コールド）
 安藤久雄
 岡本マサヒロ
 デザイン：境隆太
 発行人：和田富夫
 協 力：NPO釜ヶ崎支援機構
 大阪市立大学都市研究プラザ
 NPOコールド
 みやしろ

○畑さん(65)の話より

先日(せんじつ)は急(きゅう)におもいたって親(おや)のハカ参(ま)りに帰(かえ)ってきたんや。枚方市(ひらたし)やからそんなに遠(と)くない。お供(そな)え用のマシユウと線香(せんこう)買って。

ところがかんじんの親(おや)の墓(はか)がわからへん。元(もと)をたどれば同じ畑(はた)中(ちゆう)一族(いちぶ)で親戚(せきしん)類(るい)みたいなのやろうけど、畑(はた)中(ちゆう)姓(せい)のハカばかり(ばかり)ずいぶん年(ねん)月(げつ)がたっているから、わからへん。昔(むかし)の木(き)で建て(た)た墓(はか)やから、字(じ)もうすれていて、やっとそれらしきハカにマンジユウと線香(せんこう)をあけて来た(ま)たんや。まちがっていても、先祖(せんぞ)の供養(くやう)をしたわけやからそれもいいか。もうこれです(し)て死(し)んでもいいわ!!!

○Aさん(59)との会話から

生まれたところ(うま)は、兵庫(ひょうご)県(けん)の県北(けんほく)。雪(ゆき)深いスキー場(じやう)や温泉(おんせん)地(ち)もある。10軒(けん)ぐらいしか

ラ下(さ)げて今(いま)さら帰(かえ)れるんや。夜(よる)のうち(うち)に帰(かえ)って親(おや)の安否(あんび)をたしかめられたら、墓参(はかま)りをして親不孝(おやふこう)をわびたい

ら、トクソウの時(とき)は仕方(しかた)ないけど、雨(あめ)・台風(たいふう)をこわがって休(やす)むわけにはい(い)かない。カッパ着(き)て行く(い)く。最近(さいきん)回収(かいしゅう)する仲間(なかま)がへったけど(生活(せい)保護(ほご)が増(ふ)えたから?)回収(かいしゅう)できる量(りやう)もへったなあ。二週(にしゅう)間に一度(いちど)の回収(かいしゅう)日(ひ)、以前(いぜん)80K(80千)〜90K(90千)集(あつ)められてた地(ち)いきが最近(さいきん)は70K(70千)がやとや。値段(ねだん)も安く(やす)なったし。

からコツコツとアルミ缶(かん)と特掃(とくそう)で小銭(こせに)で勝負(しょうぶ)しているんや。まだまだ若(わか)い者(もの)に負け(ま)へん。自分(じぶん)に自信(じしん)もある。いつまでいけるかわからへんけどな……。

仲間は今

釜ヶ崎(かまがさき)で働(はたら)き、暮(く)らす仲間(なかま)たち。アルミ缶(かん)集(あつ)めや特掃(とくそう)で働(はたら)き、あるいは生活(せい)保護(ほご)で暮(く)らす仲間(なかま)たち。酒(さけ)をのむ者(もの)は飲(の)み、歌(うた)い、ひとり(ひとり)で眠(ねむ)る仲間(なかま)たちに、また冬(ふゆ)がや(や)つてきました。ふるさとを思(おも)い出(だ)す冬(ふゆ)の空(そら)。

○笹井さん

朝(あさ)の冷(ひや)え込み(こみ)がきつくな(な)って来(き)て朝(あさ)早く(やく)帰(かえ)るしか(か)ない。タクシ(た)ーで帰(かえ)るしか(か)ない。な(な)あー。ふん切(き)りがつかへん。大(お)きな力(ちから)べにな(な)ってる。

○Kさん(70才)

俺(おれ)はギャンブル(ギャンブル)好き(す)いやから生活(せい)保護(ほご)のお世話(せわ)にな(な)らへん。特掃(とくそう)に(に)い(い)って時(とき)々(々)その話(はなし)される。おそ(お)らく生活(せい)保護(ほご)の世話(せわ)にな(な)ったらアツ(アツ)と言(い)うまにギャンブル(ギャンブル)につき(つき)込んで(い)てしま(しま)う。そ(そ)んな生活(せい)や

ついで先(せん)日(じつ)聞(き)くともなし(なし)にトナリ(トナリ)で話(はな)していた二人組(ふたりぐみ)、炊(た)き出し(だし)の話(はなし)をして(し)ました。聞(き)く所(ところ)によると、各(かく)ボランティア(ボラン)団体(だんたい)・組(ぐみ)合(あ)い系(けい)、そ(そ)してキリス(キリス)ト系(けい)、毎(まい)日(にち)ど(ど)っか(か)で炊(た)き出し(だし)がある(あ)るとの事(こと)。話(わたい)題(だい)はあ(あ)そこの炊(た)き出し(だし)は味(あじ)がうすい(す)いとか、あ(あ)そこの団(だん)体(たい)のはマズイ(マズイ)とかの話(はなし)。

ないイナカ。若(わか)い時(とき)にやん(やん)ちゃ(ちゃ)をして(し)てもう30年(ねん)近(ちか)く帰(かえ)ってない。最近(さいきん)親(おや)のユメ(ユメ)をよ(よ)く見(み)るんよ。生(い)きていたら94(94)〜95(95)才(さい)にな(な)っているはず(はず)。でも(でも)どのツ

がきつくな(な)って来(き)て朝(あさ)早く(やく)帰(かえ)るしか(か)ない。タクシ(た)ーで帰(かえ)るしか(か)ない。な(な)あー。ふん切(き)りがつかへん。大(お)きな力(ちから)べにな(な)ってる。

俺(おれ)はギャンブル(ギャンブル)好き(す)いやから生活(せい)保護(ほご)のお世話(せわ)にな(な)らへん。特掃(とくそう)に(に)い(い)って時(とき)々(々)その話(はなし)される。おそ(お)らく生活(せい)保護(ほご)の世話(せわ)にな(な)ったらアツ(アツ)と言(い)うまにギャンブル(ギャンブル)につき(つき)込んで(い)てしま(しま)う。そ(そ)んな生活(せい)や

うくん、それはないやろ。人(ひと)それぞれ(それぞれ)の理(り)由(ゆう)があ(あ)って炊(た)き出し(だし)の世話(せわ)にな(な)ってるんやろ。う(う)けど、感(かん)謝(しゃ)感(かん)謝(しゃ)の気(き)持(もち)ちが先(ま)とち(ち)がう(う)んかな。生(せい)活(かつ)保(ほ)護(ご)のお世話(せわ)にな(な)りながら炊(た)き出(だ)しならぶ(ぶ)のなん(なん)て論(ろん)外(がい)、と(と)思(おも)うんや(や)けど。(和(わ)田(た))

それぞれの越冬

えつとう

「ひとりの餓死者、凍死者も出さない！」を合言葉として、今回で四一回を数える釜ヶ崎越冬闘争が、一月二日から一月七日にかけて開催された。

三角公園での越冬まつりをはじめ、炊き出し、医療センター前での布団敷き、人民パトロール、医療パトロールなど、さまざまな取り組みがおこなわれた。



祭りの準備

越冬の実行委員会の

メンバーだけでなく、手伝う男性らは鳶や大工などの労働者らだ。釜ヶ崎には、建築や解体の技術をもつスペシャリストがたくさんいる。そして彼らの多くは快く手伝いを引き受けてくれる。ステージの屋根づくりはできわよくすすめられた。

音楽ステージ

連日、ステージではライブがおこなわれた。一月二日に歌った旬花さんはつぎのように語った。

「三角公園で歌っていると、釜ヶ崎のおっちゃんたちの気持ちが強く伝わってきます。野次も多いし、と

ときには『俺にも歌わせろ！』なんて言われることもあるし、握手を求められたりすることもあります。そのいっぽう目をつぶってじっと聞いてくれる人もいます。おっちゃんたちの気持ちをストレートに受け取ることができるのが釜ヶ崎の特徴。気持ちを受けとめて、私は歌として投げ返す。そんなやりとりが楽しいですね。」



参加ミュージシャンからのメッセージ

釜ヶ崎バンド 井上登 五九才(労働者)

演奏を始める前、お客さんにエールを叫んだらえらく盛り上がりすぎて、おかげでそのまま最後まで熱いまま突っ走ることができた。

ライブ後、「今までで一番よかった」とか「今日もまた呑んでるんかと思うた」とか言われて、今まではなんでも酒に頼って生きてきたけど、これからはもうほんまに、酒なしでも人と普通に接したり、ややこしいいろんなことを乗り越えていけると自信を持った。暮れから正月は病院が休みで、アルコール依存の薬を飲んでええということ、酒を飲んでしまい、たいがいの人がこの時期に治療を失敗するんじゃないけど、僕はその晩、酒の席に取って出向き、酒を飲まずに楽しむこともできた。

そやからその日はほんまに衝撃的やった。酒なしで楽しかったことなんて今までなかったのに、ライブと打ち上げを酒なしで普通に楽しめたからほんまに嬉しかった。

SHINGO★西成

歌うことしかできないんで、歌います。

木村充揮 (元・憂歌団)

アホがいちばん！
ぬくいんがいちばん！

新年書き初め大会

一月二日と三日、ステージで恒例の書き初め大会があった。文字には書いた人それぞれの思いがにじみでている。

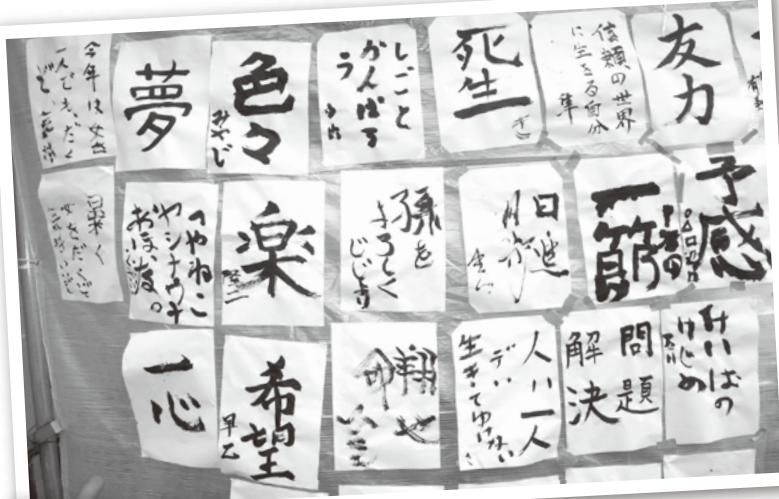
「人ハ一人デハ生きてゆけない」「友力」

と書いた人がいた。釜ヶ崎で生きていくうえで、人のつながりはきわめて重要である。「翔や命」と書いた男性は、わけあって会う機会がない息子のことを思っている書き初めである。また「孫をよろしく じじより」と書かれたものも。

していた女性は、そのあと「雇用をねがう」と書いた。みんながちゃんと仕事できてるっていい街になることをつよく願う。

学生ボランティアの声

今回で二度目の釜ヶ崎訪問になる佐藤有寿さん(明治学院大学)は、炊き出しの手伝いを終えたあと「焚火にあたりながら、おっちゃんたちと会話できたことがうれしかった。炊き出しのときに声をかけてくれた男性は、手品を見せてくれた。沖繩の踊りを教えてくれたおっちゃんもいました。」との交流を喜んでいました。



2011年1月現在アルミ缶買い取り価格／キログラム

場所	店名	値段(キロ)	電話・ひとこと
大阪市西成地区	小田リサイクル	95円	06-6631-4649
浪速区	吉田商店	100円	
浪速区戎本町2-8-22	金城商店	100円	06-6631-2329
浪速区戎本町2-8-22	文本	100円	06-6631-4759
西成区	中島	100円	
堺市草部	井上商店	95円	090-4908-0322 (出張買い取り有)
阪府堺市堺区大仙西町6丁181-1	米田商店(本社)	95円	072-241-4018
堺市南区高尾1-605-3	米田商店(泉北営業所)	95円	072-260-3338
草部	ちきふ商店	95円	
堺市杉本町市大前	竹丸商店	95円	072-6699-8869
東大阪市水走	北摂商事	90円	0729-86-0644
八尾市	中島商店	100円(水曜日)	西成より出張買付
八尾市	山田リサイクル	95円	西成より出張買付
八尾市水越	東洋金属	110円	170号線(外環)
和泉市北信太	夏山商店	100円	0725-46-5504
大東市	木下商店	90円	出張買付・090-2705-1655
堺市大仙公園ウラ	中島	火・木午前中	出張買付

*寒いなかがんばっている仲間のみなさん、アルミ缶を集めたあと西成まで戻るのはたいへんだし、体力的にもつらいものです。交通事故の危険もあります。回収したちかくの店で買い取ってもらってください。どうぞ、気をつけて。

2011年 2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

2011年 3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2011年 4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

編集後記
 エエカマ通信が共同通信で取材されました。いろんな地方新聞で釜ヶ崎のことが紹介されます。しんどいこともあるけど、ええかげんにのりきって、笑顔で。おげんきで！(か)

「エエカマ通信」の寄付・カンパ、感想はNPOココルームまで
 〒557-0001
 大阪市西成区山王1-15-11
 電話&ファックス：06-6636-1612
 info@cocoroom.org

トクソウから 風邪をひかない工夫
 トクソウの藤本です。寒い日がつづきますが、お元気ですか。僕も風邪をひきそうになって、インソジでうがいしています。僕が釜にきたころ、みなさん元気やなあとおもっていました。トクソウで働いて10年、先輩方の寒さをふせぐ工夫、いろいろ参考にしていきます。首とつくところ。足首、手首、そして首、養生する。足は、脚絆(きやはん)がいいです。手首はしっかりしめるものもいいです。首には100均で買ったマフラー。そしてもっとも寒い日、カイロを腰にシャツの上から貼る。これが一番です。僕は、さむがりやのバイクに乗りますし、越冬では三角公園で長いです。だからたまにあつすぎるころにいと、のどをやられます。俺って身体が弱いなあとおもったりします。しかし、みなさんといっしょに仕事をすると気持ちいいです。身体も気持ちもです。今年もよろしく。

謹賀新年

エエカマ仲間から、

新春のメッセージをおくりします

釜ヶ崎をめぐる環境は

今年もまたきびしい年と思われま

す
仲間のみなさん たくましく したたかに
生きていきましょう

平成二十三年元旦 和田富夫



●安藤久雄



あけましておめでとうございます。
ココルームに和田さんがやってくる
と、いきなりブハツとにぎやかに
なります。ひとの気持ちをあかるくし
ていく台風のような「エエカマ」
は風のあと、咲く花のように届けら
れたいです。

●上田假奈代 (ココルーム・詩人)



今年も
がんばろう!

●岡本マサヒロ (ココルーム・闘う人類学者)



たぶん現在も無職...。
がんばります!



●境隆太 (デザイナー)

萩之茶屋商店街

中野マリ子

商店街の喫茶店で働いていたころ、朝はお客さんが、上下のパジャマ姿のまま「おはよう、モーニングで1ぱい」と走りこんできたり、すごいのはパンツ1枚でコーヒーをすすっていったこともある。

私も50代のじゆく年ウエートレス、「姉さん、算数の新聞とつてくれ」と言われた先輩が「ほれ、スポーツ紙よ」と渡してくれた。それで国語の新聞が「朝日」や「読売」のことだとわかった。なるほどと感心した。そんな雨のふりしきる冬、台車を押したずぶぬれの野宿の人が雨をよけて店の向いにたっていた。店先の掃除をしていた私が寒いやらなと思つてポケットのお金を「なんか熱いもん飲めい」と出した。その人は両手を台車から

はなし、汚れたびしょぬれの軍手をぬごうとするが、かじかんだ両手にはりついていて、うまくぬげない。長い間、言葉のない時間。つめたい素手になった手のひらに500玉をのせた時、感動で胸がふるえた。人間としての品格をおしえてもらったおもいだつた。こんな釜ヶ崎が大好きです。



マルちゃんを知り合つて三十数年、当時は西成のマドンナと言われ、テレビ、マスクミにひんぱんに取り上げられていました。パレスチナ、キューバで、看護のボランティア活動をされていました。ずっと釜ヶ崎の労働者ホームレスの味方としてずっと活動をしています。僕もマルちゃんもそれなりに年とりしましたが、あのステキな笑顔はいつも同じ。そんなマリちゃんが大好きです。

(和田より)